

【公報種別】特許法第17条の2の規定による補正の掲載

【部門区分】第1部門第2区分

【発行日】平成26年7月10日(2014.7.10)

【公表番号】特表2012-519534(P2012-519534A)

【公表日】平成24年8月30日(2012.8.30)

【年通号数】公開・登録公報2012-034

【出願番号】特願2011-552911(P2011-552911)

【国際特許分類】

A 6 1 C 13/00 (2006.01)

【F I】

A 6 1 C 13/00 G

A 6 1 C 13/00 B

A 6 1 C 13/00 K

【誤訳訂正書】

【提出日】平成26年5月19日(2014.5.19)

【誤訳訂正1】

【訂正対象書類名】特許請求の範囲

【訂正対象項目名】全文

【訂正方法】変更

【訂正の内容】

【特許請求の範囲】

【請求項1】

酸化ジルコニウムの義歯を製造するための方法であって、前記酸化ジルコニウムは安定化しており、前記方法が：

a) 別の対象体の鑄造物上にエッチング可能な媒質を配置するステップと；

b) 前記エッチング可能な媒質がある鑄造物上で、酸化ジルコニウム粉末を少なくとも45MPaの圧力で所望の形態の対象体に圧縮することによって、前記エッチング可能な媒質を、前記別の対象体と結合及び保持できる表面部である、前記対象体の表面部に嵌入させるステップと；

c) 前記対象体を最終形状に任意に加工するステップと；

d) 酸化ジルコニウムを正方晶系の結晶構造に変形するために本体部を1170 を超える温度で焼結するステップと；

e) 該焼結ステップで除去されない前記エッチング可能な媒質の残留物を除去すべく、前記エッチング可能な媒質をフッ化水素酸を用いてエッチングすることによって、マイクロ工学的な保持表面を提供するステップと；

を具えることで特徴づけられる方法。

【請求項2】

請求項1に記載の方法において、前記媒質がポリマー粒子であることを特徴とする方法。

【請求項3】

請求項1に記載の方法において、前記媒質がガラス粒子であることを特徴とする方法。

【請求項4】

請求項1ないし3のいずれか1項に記載の方法において、該焼結温度が1300 ないし1600 であることを特徴とする方法。

【請求項5】

請求項1ないし4のいずれか1項に記載の方法において、前記酸化ジルコニウムが酸化イットリウム、酸化マグネシウム、酸化カルシウム、及び酸化セシウムの属からなる群から選択される化合物のうちの1以上で安定化されることを特徴とする方法。

## 【請求項 6】

請求項 1 ないし 5 のいずれか 1 項に記載の方法において、ステップ b ) の圧縮が 4 5 M P a ないし 1 5 0 M P a の圧力で行われることを特徴とする方法。

## 【請求項 7】

請求項 1 ないし 6 のいずれか 1 項に記載の方法において、ステップ b ) の圧縮が冷間等方加工プレスを用いて行われることを特徴とする方法。

## 【請求項 8】

請求項 1 ないし 6 のいずれか 1 項に記載の方法において、ステップ b ) の圧縮が機械的な一軸性圧力を用いて行われることを特徴とする方法。

## 【請求項 9】

請求項 1 ないし 6 のいずれか 1 項に記載の方法において、ステップ b ) の圧縮が加圧式キュベットを用いて行われることを特徴とする方法。

## 【請求項 10】

請求項 1 ないし 9 のいずれか 1 項に記載の方法において、ステップ e ) のエッチングの後にすぎステップが続く、有機酸及び / 若しくは無機酸、ならびに / 又は水が用いられることを特徴とする方法。

## 【請求項 11】

請求項 1 ないし 10 のいずれか 1 項に記載の方法において、ステップ e ) のエッチングが 1 分ないし 3 分の期間、フッ化水素酸を用いて行われ、前記フッ化水素酸の濃度が 5 % ないし 1 5 % であることを特徴とする方法。

## 【請求項 12】

請求項 1 ないし 11 のいずれか 1 項に記載の方法において、前記本体部が加成的な形成プロセスを用いて得られることを特徴とする方法。

## 【請求項 13】

請求項 1 ないし 11 のいずれか 1 項に記載の方法において、前記本体部が減成的な形成プロセスを用いて得られることを特徴とする方法。

## 【誤訳訂正 2】

【訂正対象書類名】明細書

【訂正対象項目名】0 0 1 1

【訂正方法】変更

【訂正の内容】

【0 0 1 1】

本発明は二酸化ジルコニウムの対象体に表面部を提供することによってこの問題を解決することを目的としており、その表面部は骨構造、エナメル構造、又は象牙質構造、ならびにセラミック構造といった別の対象体に結合及び保持できる。

## 【誤訳訂正 3】

【訂正対象書類名】明細書

【訂正対象項目名】0 0 1 2

【訂正方法】変更

【訂正の内容】

【0 0 1 2】

特に、本発明は酸化ジルコニウムの義歯の製造方法に関し、前記酸化ジルコニウムは安定化しており、本方法は：

a ) 酸化ジルコニウム粉末を少なくとも 4 5 M P a の圧力で所望の形態の対象体に圧縮するステップと；

b ) エッチング可能な媒質を表面部に嵌入させるステップと；

c ) 対象体を最終形状に任意に加工するステップと；

d ) 酸化ジルコニウムを正方晶系の結晶構造に変形するために本体部を 1 1 7 0 を超える温度で焼結するステップと；

e ) 媒質を除去し、かつマイクロ工学的な保持表面を提供すべく、エッチング可能な

媒質をフッ化水素酸を用いてエッチングするステップと；  
を具える。